

第3回県立高等学校編成整備に関する懇話会概要

開催した会議の名称	第3回県立高等学校編成整備に関する懇話会
開催日時	平成23年4月26日（火）15：00～17：00
開催場所	（所在地）〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 （会場名）沖縄県庁12階第2会議室
出席者	委員（懇話会会長）前泊委員 （会長代理）前新委員 上地委員、北川委員、城間委員、宮城委員 事務局（総務課） 嘉数企画監、渡久山主任指導主事、桃原指導主事 （県立学校教育課） 山城班長、小成主任指導主事、宮城指導主事 （義務教育課） 比嘉指導主事
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の人数	なし
会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 事務局説明</p> <p>①前回（第2回）懇話会の概要</p> <p>②（HP掲載予定）の確認</p> <p>3 議題</p> <p>【素案】のP4～P5について</p> <p>〔I 本県県立高等学校編成整備の現状と課題〕で、特にインターナショナルスクール、那覇中等教育学校、中高一貫校全般と南部総合実業高校を検討したが、現計画の見直し（平成19年度）時の懇話会でのまとめ（県立学校編成整備計画の一部見直しの資料）と、重複している。との指摘があった。</p> <p>各委員からの意見は下記のとおりである。</p> <p><主な論点></p> <p>インターナショナルスクールについて</p> <p>○「外国語関連の学科をもつ既存の学校を再編することがより実現性が高いのではないかと思われる。いわゆる、既存の学校の国際関連学科を再編して、イメージ教育が実践できるような環境作りをした方がよいのではないか。</p> <p>前回の話し合いでは、小・中一貫校のアミークスが設置されていることを受けて、「中高一貫のスタイルではなく高校のみにし、既存の高校の関連学科を含め発展させるという考え方にまとめた。この考え方が、実現性が高いと考える。</p>

- 球陽高校と沖縄市立山内中学校の「イマージョン教育研究指定校」の総括では、課題や、困難性があるということであり、学校をつくることは難しいという結果になった。
- イマージョン教育は、すべて英語でやる授業と、日本語でやる授業もある。（大学院大学の）子弟向けのすべて英語でやるものと2つあるという認識でよいか。
- 前回の会議もうけて、インターナショナルスクールについては、高等学校における語学学習を発展させ、既存の関連学科を改編して環境を整えていくということでもとめる。

那覇中等教育学校について

- 平成19年度の見直しでは、「現在設置されている中高一貫教育校の成果や財政状況等を踏まえ、那覇市内の既存の高校を中高一貫教育校に改編することを次期編成整備計画において検討することとする。」とまとめられており、那覇中等教育学校というのは消えている。
見直し時の懇話会の提言は併設型か、連携型か、中高一貫教育校に検討した方がよいのではないかという方向を示している。
- 中等教育学校とは、一つの学校に中等部と高等部がある様な学校である。
中学校と高等学校を一貫して教育を行う学校を中高一貫教育校としてとらえて、その中には連携型、併設型、中等教育学校のような形がある。本県には公立学校には、中等教育学校はない。
- 見直しの提言には、成果を踏まえるとあり、現在本県に中等教育学校はないので、連携型、併設型について検討するという認識でよいのではないか。
- 先ほどまとめたインターナショナルスクール中等教育学校と、今議論している中等教育学校は別ものである。
- 【素案】で示した、那覇地区への中等教育学校は、現行編成整備計画にある計画を紹介したものである。
素案の15ページにも既存の高等学校に中高一貫教育校の設置を検討するとしている。
- 中高一貫が可能かどうか検討する必要がある。実施している学校のどの様な成果があり、どの様な課題があるかだと思う。
- 連携校3校の進路決定率は高く、成果はあると考えている。
- 併設型の成果として県学力到達度調査結果において基礎基本が図られているなどがある。
課題は、教員数が減り学校運営がきびしいなどがある。
- 成果からすると、（那覇の）小・中・高の一貫校も無理はないと思う。
- 高校までの一貫教育とした場合、この一貫校の高校に行きたいという一貫校以外の中学生に対してどう考えるか。
高校への進学は自分の考えで意志決定をした方がよい、人生の中で大切なことである。
- 逆もありうる。一貫校の中学生が、他の高校へ進学したいと希望することも考えられる。必ず、進学率と絡めないといけないのか、これが成果なのか。

中学校と高校が共通の科目をつくって、一貫した教育をするというスタイルもよいのではないか。

- 現在の那覇にある高等学校で、中高一貫の学校につくり替える必要があるのかどうかで判断した方がよい。
- このような考え方（中等教育学校）は公立学校には、なじまないのではないかと思う。私立ではいいと思う。
行きたいという生徒が多い高校を中高一貫校にするとうまくいく。
本土では伝統校がうまくいっているというのはこの部分である。
- 設置者の視点からも、中学校は市町村で、高校は県でとなると調整に苦勞する。
- 県立でどれぐらいニーズに答えられるか、やってみないと分からない部分があるのではないかと思う。ニーズがあるか検討してみる必要がある。
- 連携型中高一貫校が、どの程度の成果が求められているかという部分であるかと思う。科目をそろえ、共通した指導を行うことにより成果を上げていることからすると、やってみる価値はある。
中学校からすると高校との連携は助かるものである。伝統校、有名校だけでなくもできるのではないか。例えば、高校の看護科と連携するなど、教科科目を一貫してできたら、大変有効である。
- 連携するとスムーズにその高校に行ってくれるか、それとも逆かは、あくまでも仮定であり、やってみないと分からない。
- 与勝緑が丘中学校の志願状況は、平成23年度については2.36倍で、校区は全県ということになっているが、現実的には通える範囲、中部地区からの生徒である。
- 那覇市に設置するとどこからでも通えるので、志願者は膨大な数になると思う。希望者はほとんど受け入れている中で、キャパもありどこでできるか、公立としては大きな課題で、かなり厳しい。
- 与勝高校の事例でも物理的な課題もかなりある。那覇市でも併設を考えるとこれも難しい。連携型しか考えられないと思う。那覇市で考えると連携型で考えた方がよい。
- 連携なので、複数の中学校を考えるのか、一つの中学校を考えるのか、教員も行ったたり来たりできる近い距離が望ましい。
- その後、中三になった時の進学についても考える必要がある。
- 連携なので、その高校に優先的に入学するということになる。
- 那覇市の状況を考えると用地の関係等で、併設ではなく連携型になる。
- 与勝で併設型になったのは、本部、久米島、伊良部に比べるとかなり中学校の数が多いということもあり、連携では困難を極めるだろうという意見があった。
那覇では、連携校が多くなって難しいと考える。連携では高校へ進学するときにしほりかける必要がある。
- 真和志高校の介護福祉コースでは資格が取れるようになっているが、夏休みに真和志高校の職員が、石田中学校の教員に

30時間の研修を実施したことがある。そのことが発展して、資格制度をつくらうという計画が上がったことがある。コース単位の連携は可能なのか。

- 学校間で調整すれば可能である。中学校と高校の連携の在り方を今後の課題としたい。
- このような内容であれば、(中高の連携を考えることが)可能であるということだ。中高一貫校や中等教育学校の話はなくなるということだ。
- 那覇市に中高一貫校を設置するのは課題が大きすぎる。中学校と高校が学校同士、システム上の連携ではなく、科目あるいは教員同士の連携を深めていくことで、教育効果を上げるという方向でまとめる。

南部総合実業高校について

- 南部総合実業高校については、前回の話し合いでは地域の理解を得て進めるということだが、現実的には難しい。
- 今の状況では南部総合実業高校の計画を推進するのは難しい。ここでは専門高校をどの様にしたら活性化できるか話し合ってみようか。
- 企業や大学との連携を進める必要がある。夏休みなど大学において、公開授業や、出前講座を開き、先端的な産業・技術についてや、ベンチャー企業の紹介などをおこない、高校生と連携してはどうか。
- アンケート結果にもあったように専門高校でも、進学ニーズは高いので、LANなど利用して普通高校の進路指導等の情報を活用できるように取り組んだらどうか。
- 専門高校をその地域の職業教育のセンタースクールとしての位置づけをしたらどうか、地域との連携を強め期待度を高めれば今よりも改善されると思う。
- 農業高校と工業高校の連携を図る、出前講座など生徒のこのような連携の仕方をしたらどうか。
- 再編統合ではなく、今ある専門高校を充実させるということだ。大学や企業と連携することには大賛成である。高校に企業から製品開発などの投げかけがあったら、生徒も悩むが、頑張ろうという意識が生まれると思う。
- 企業との連携など、担当教師のセンスが大きいのではないかなと思う。アメリカでは教師が社長であることは、よくあるそうだ。
- 南部工業に対するニーズとしては、これまで入学者が減少してきている傾向があるが、統合されるということで3クラスが2クラスに減っている。
- 南部農林よりも、南部工業高校が小規模ということが課題である。10年後には県全体で約1300名の生徒数が減少する中で、2クラスの学校が維持できるのかという大きな課題を抱えている。
- 今、活躍しているから、いいというのではなく先のことを考えないといけないということだ。
- 南部総合実業高校の計画を打ち出しているのは、少子化の問題も含めて、将来の専門高校の方向性で、農・工・商・水も含め生徒にいろんな科目を選択できるような総合選択制を取り入れた教育を行うことが必要であるということである。

- 長いスパンで見ると、基本的には前回話し合ったように、地域、関係団体の理解が得られるように説明して進めていくということでのよいのではないか。
- ただし、中部工業高校を美来工科高校に名称を変えただけでも、卒業生の中には不満を持ち続けている人もいるようだ。このような計画を進めることは難しいと思うが、現実的には生徒数が減ることを考えると進めるしかないと思う。いずれは地域・関係者の理解は得られる。
- 南部総合実業高校については、懇話会では結論を出せない。
- 専門高校の活性化について、企業や大学との連携を進めること、LANなど利用して普通高校の進路指導等の情報を活用できるように取り組むこと、専門高校をその地域の職業教育のセンタースクールとして位置づけること、農業高校と工業高校の連携を図ることの4つの提案を加えれば、専門高校が自助努力して活性化につなげていくことができる。
- 少子化という点も加えて欲しい。
- 活性化をめぐっていくつかの考え方が出されたということで、事務局でこれを話し合い、その結果が出たら、また、この件について話し合うことでまとめる。

学校の適正規模化について

- 【素案】では、適正規模が4～8学級としているが、10年後に向けて生徒が減少していること、現実的に志願者が落ち込んでいる学校もかなりあること、学級数が多くて学校規模が大きくなっている現状もある。
- 高校教育を受けさせたいという立場から、少子化する状況で普通科を減らすとさらに集中することになるのではないかとと思う。
- 既存の高校を育てるという視点で見ると必要があるのではないかと。現状では、志願者が多い学校の周辺校の定員割れの学校の存在が危ぶまれている。
- 以前ほど普通科志向ではないと思う。成績のよい生徒でも自分の適性に合わせて目指す学校・学科へいく生徒もいる。
- 高校は義務教育ではないから適正規模を超えても希望が多い場合は、それでもよいのではないかとと思う。
- 少子化になると過大規模校の生徒数も減るのではないかと。
- クラス数の多い学校がでてきたのは、生徒数が増えてきた時期に県の財政上の事情で、用地等の問題もあり新しい学校をつくることができずに学校の敷地内に増築してきたという経緯があるのではないかと。
- 4から8学級が適正規模という考え方は、現計画にもあるが、減らすことができなかつたのは生徒のニーズがあったためである。
- 首里東高校の定員割れは厳しい状況である。
- 真和志高校のように特色ある学校づくりをする必要があるのではないかと。
- 今の意見に賛成である。子ども自ら何がしたいか、というニーズに対応することで、子どもも変わっていくことができると思う。
- 地域に受けられる学校にしたいというのは、どの学校にもいえることである。これを踏まえて、今後も沖縄の学校をどの

	<p>様にしていきたいかを考えていく必要があると思う。</p> <p>※欠席の三村委員の質問事項等を配布</p>
	<p>4 連絡 次回懇話会は委員の希望日程を調整し、会長と相談して決定する。</p> <p>5 閉会</p>
会議資料	資料 第2回県立高等学校編成整備に関する懇話会概要
問い合わせ先	<p>担当課 沖縄県教育庁総務課教育企画班（渡久山・桃原）</p> <p>電話 098-866-2705</p> <p>FAX 098-866-2710</p>